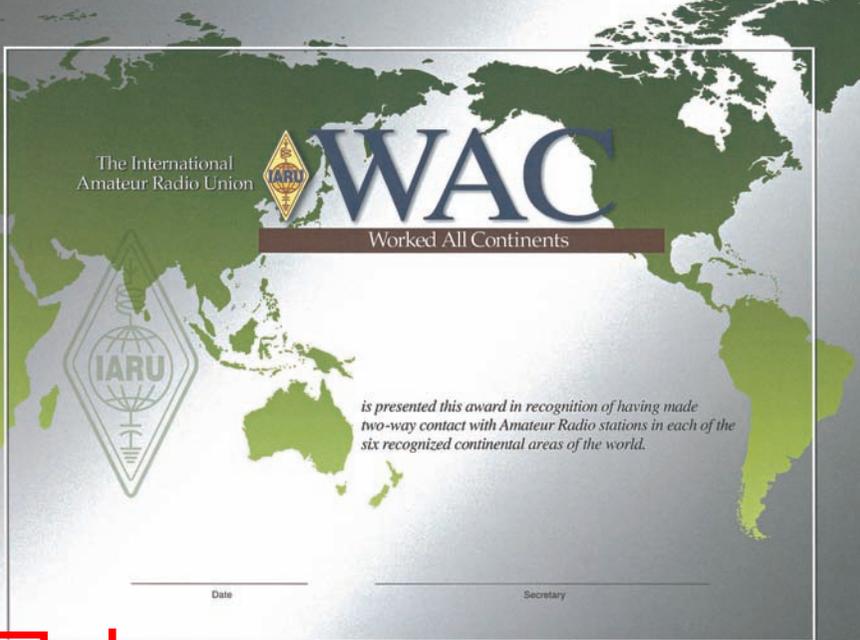


わかりにくい言葉もこれでクリア

解説 アマチュア無線の 基本用語集

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ CQ ham radio編集部 [編] ★★★★★★★★★★★★★★★★★★



見本

CQ出版社

日アクティブ・ハムライフ・シリーズ

あ行

あ

アイボールQSO

アマチュア無線家同士が直接会って話をすることです。eyeball(目)でQSO(交信すること)することから、このように言われます。アイボールQSOでいろいろな知識を得たり、いろいろなハムとの出会いがあったりするので、積極的にやりたいものです。ハムフェアや各地のハムの集いに出かけてみてください。意外なアイボールQSOができることもあります。

空きチャンネル

FMモードで、交信が行われていない周波数(チャンネル)のことです。チャンネルが空いているかどうかは「チャンネル・チェック」を行って確認します。詳しくはチャンネル・チェックの項を参照してください。

アクセサリー

無線機器の性能を高めたり、使いやすくした



アクセサリーの例

フィルタ(左)とヘッドセット(右)

りするために取り付ける部品や一緒に使う装置のことです。CWフィルタやアンテナ・チューナ、エレキ、外付けプリアンプ、インターフェース、マイクなどいろいろな種類があります。

アクティビティ

運用や運用頻度のことを指します。

使用例…「週末にアクティビティがある(週末に運用がある)」「アクティビティが高い(運用頻度が高い)」

アッテネータ

必要以上に強い信号を、適度なレベルにまで弱くする減衰器のことです。

受信機では、強すぎる入力信号をちょうど良いレベルにまで下げるときに使います。トランシーバの「ATTスイッチ」をONにすると、アッテネータが動作します。

送信機では、QRP運用を行うときにパワーを下げるために使うこともあります。この場



トランシーバの操作パネルにあるアッテネータ・スイッチ



合、トランシーバのアンテナ端子の後ろに外付けのアッテネータを取り付けます。

アップリンク

レピータやアマチュア衛星などの中継局を使った運用を行うときに、中継局に向けて電波を送信することです。中継局から相手局に向けて電波を出すことはダウンリンクといいます。

通常、アップリンクの周波数とダウンリンクの周波数は、異なる周波数が使われます。たとえば430MHz帯のレピータ局では、アップリンク周波数が434MHz、ダウンリンク周波数が439MHzというように5MHzの違いがあります。衛星通信では、アップリンクとダウンリンクでバンドを変える（アップリンク144MHz/ダウンリンク430MHzなど）ことが一般的です。

アパマン・ハム

アパートやマンションなどの集合住宅から運用するハムのことです。アンテナやトランシーバの設置場所に大きな制限がありますが、いかにして効率良い運用を行うかという工夫も楽しみの一つでしょう。

V/UHF帯では、アンテナのハンディキャップをあまり感じないでしょう。それどころか、



ベランダにアンテナを設置したアパマン・ハム

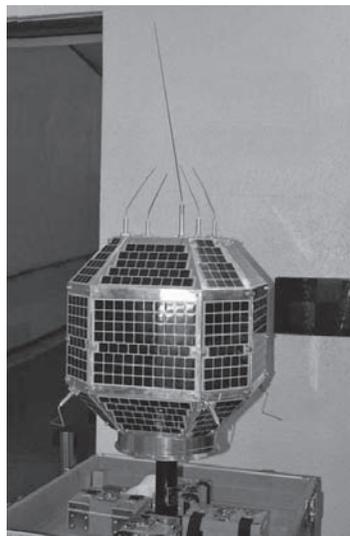
高層階に住むアパマン・ハムは、高さを生かして広い範囲の局との交信を楽しめます。

HF帯では、効率の面でどうしても不利になるコンパクトなアンテナを使うしかないのでありますが、創意工夫と情熱で大きな成果を残しているアパマン・ハムもいます。

アマチュア衛星

アマチュア無線用の中継器を搭載した人工衛星です。一般的には衛星に向けての送信周波数（アップリンク周波数）と、衛星から送られてくる受信周波数（ダウンリンク周波数）は違うバンドを利用しています（ほとんどが144MHz帯より高いバンドを使う）。アマチュア衛星を使う交信のことを、衛星通信やサテライト通信と呼びます。

アマチュア衛星には、地球の近くを回っている低軌道衛星と、地球から離れて高い軌道で周回する高軌道衛星があります。現在は低軌道衛星しかありませんが、計画中の高軌道衛星もあります。アマチュア衛星には、いまだかつて静



アマチュア衛星の模型

見本



1

1.8/1.9MHz帯

MF帯のアマチュア無線のアマチュアバンドで、割り当て周波数は1810~1825kHz/1907.5~19125kHzです。

かつて、最も低い周波数のアマチュアバンドだったことから、現在でもトップバンドと呼ばれています。

10MHz帯

HF帯のアマチュアバンドの一つで、WARCバンドと呼ばれるバンドです。割り当て周波数は10100~10150kHzです。第2級アマチュア無線技士以上に許可され、電信とデジタルモードだけが運用できます。運用できるのは上級ハムに限られますが、とてもにぎわっているバンドです。

10分間ルール

DXコンテストに採用されているルールです。オールバンド部門に設定されています。あるバンドで運用(交信)を開始したら、最低10分間はそのバンドにとどまらなければならないというものです。違反した場合、その交信の得点は0点です。バンドを切り替えても受信するだけでQSOに至らない場合は、バンドを変更することにはなりません。

1200MHz帯

UHF帯のアマチュアバンドの一つで、割り当て周波数は、1260~1300MHzです。常置場所からの運用は出力10Wを許されますが、移動運用時は出力1Wまでに制限されます。

135kHz帯

長波帯で唯一許可されているアマチュアバンドで、割り当て周波数は、135.7~137.8kHzです。波長が2200mもあることから、アンテナに苦心するバンドです。

このバンドは出力制限が特別で、EIRP(等価等方輻射電力)でわずか1Wに制限されています。EIRPとは、アンテナの利得に送信機からの送信出力をかけて計算される、実際にアンテナから送信される計算上の電力のことです。

このバンドのアンテナは、利得がとても小さいので、送信機からの出力が大きくてもEIRPは低い値になります。

14MHz帯

HF帯のアマチュアバンドで、割り当て周波数が14000~14350kHzです。第2級アマチュア無線技士以上に許可されます。海外交信の中心的なバンドです。

144MHz帯

VHF帯のアマチュアバンドで、割り当て周波数は144~146MHzです。「ツーメーター」の



144MHz-100アワード

愛称で親しまれています。アンテナが小さくできるので、思いのほか遠距離との交信が可能なバンドです。

144MHz-100アワード

JARLが発行するアワードの一つで、144MHz帯で100局と交信してQSLカードを得ると完成するアワードです。144MHz帯の運用局はとても多いので、難易度が高くないアワードです。

18MHz帯

HF帯のアマチュアバンドの一つで、WARCバンドと呼ばれるバンドです。割り当て周波数は、18068~18168kHzで、第3級アマチュア無線技士以上に許可されます。14MHzと変わらないほど海外交信に適したバンドです。

2

21MHz帯

HF帯のアマチュアバンドの一つで、割り当

て周波数は21000~21450kHz、国内交信も海外交信も楽しめる、HF帯初心者におすすめのバンドです。

24MHz帯

HF帯のアマチュアバンドの一つで、WARCバンドと呼ばれるバンドです。割り当て周波数は24890~24990kHzで、すべての資格で運用できます。普段は静かなバンドですが、コンディションが良くなるととたんににぎやかになり、DX局がよく聞こえます。

28MHz帯

HF帯のアマチュアバンドの一つで、割り当て周波数は28000~29700kHzです。ひとたびコンディションが良くなると、DX局が強力に入感して、バンド中で聞こえます。HF帯で最もバンド幅が広く、唯一FMモードが許されているバンドです。

3

3.5/3.8MHz帯

HF帯のアマチュアバンドの一つです。割り当て周波数は細切れで、3.5MHz帯には、3500~3575/3599~3612/3680~3687kHzが、3.8MHz帯には、3702~3716/3745~3770/3791~3805MHzが割り当てられています。夜間に、にぎやかになるバンドです。

33 (Thirty Three)

Fondest Regards 女性ハム同士が交信の終了時に「さようなら」という意味で使うあいさつの言葉です。3は88の8を縦半分にしたものと言われています。

見本



A

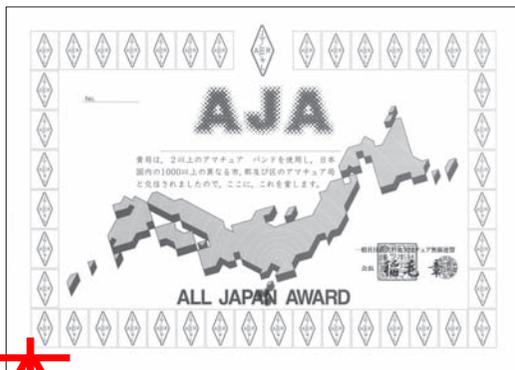
AGC (Automatic Gain Control)

無線機に装備されている、受信した信号の強弱を自動的にできるだけ抑える機能です。

一般的には、CWモードでは早い時定数 (FAST) に合わせます。SSBでは遅い時定数 (SLOW) に合わせますが、素早くダイヤルを回すときや、弱い信号を受信しているときは、FASTに合わせると有効です。

AJA (All Japan Award)

JARLが発行するアワードの一つで、二つ以上のアマチュアバンドを使い、日本国内の異なる1,000以上の市郡区のアマチュア局と交信してQSLカードを得ると完成します。1,000局以上は、500局または250局ごとにステッカーが発行されます。最低でも1,000局との



見本
AJAアワード

交信が必要な、上級者向けのアワードです。

AJD (All Japan Districts)

JARLが発行するアワードの一つで、日本の10コール・エリアから運用するアマチュア局と交信して、QSLカードを得ると完成します。HF帯で交信している人なら、最初に目指すアワードとして最適です。

アマチュア無線以外の身近な使われ方は、中波のAM放送や短波放送、航空無線などです。

ALCメータ

SSBやAMの運用時に、終段のオーバードライブを起こさないように監視するメータです。ALCゾーンという目盛りがあるので、これを超えないように注意します。

ALCメータが振れすぎているときは、音がひずんだ信号になり、質の悪い余分な信号を広い帯域で送信してしまいます。こんなときはマイ



AJDアワード



ク・ゲインを上げすぎているので、ALCゾーンを超えないように、マイク・ゲインを下げます。

ALL ASIAN DXコンテスト

JARLが主催するDXコンテストで、アジアの局とそのほかの5大陸のアマチュア局との交信をすすめるために開催されます。交信対象は、アジアの局は全世界が、アジア以外の局はアジアの局のみです。

電信部門は毎年6月第3土曜日0900から月曜日の0900(JST)に、電話部門は毎年9月の第1土曜日0900から月曜日0900(JST)に開催されます。

このコンテストでは、世界中の局がアジアに目を向けてくれます。近隣の国々の局の参加も多いので、海外コンテスト・ビギナーにとっても参加しやすいコンテストの一つです。

AM (Amplitude Modulation)

電話モードの一つです。電波型式はA3Eで表示されます。

古くは電話モードと言えばAMでしたが、現在では、50MHzと7MHzの一部の愛好家によって交信が行われているほかは、ほとんど見られなくなりました。

現在市販されているトランシーバでも、AMモードで運用できる機種が多いので、運用してみるのもおもしろいかもしれません。

APRS (Automatic Packet Reporting System)

APRSは、アメリカのWB4APR ボブさんによって開発されたシステムです。GPSから得られた位置情報やメッセージ、気象情報などをリアルタイムで共有できます。

車から位置情報を送信しながら走行する使



ARDF 競技中

われ方が多く、この位置情報を見ながら近くの局にメッセージを送り、交信も楽しむという使い方もあります。GPSを内蔵したAPRS対応のトランシーバも市販され、今後も発展が見込まれるジャンルです。

ARDF (Amateur Radio Direction Finding)

電波の発信位置を、定められた時間内に見つけ出す競技です。3.5MHz部門と144MHz部門が行われています。

アンテナが付属した専用の受信機を持って山野を駆け回り、時間内にフィールド内に隠された、最大五つのTX(送信機)を見つけるという、体力だけでなく知力も要求されるハードな競技です。20名程度の小規模な大会から、世界大会も開催され、日本人選手が優勝するなどの健闘を見せています。

ARISSスクール・コンタクト

国際宇宙ステーションに設置されたアマチュア無線局にいる宇宙飛行士へ地球の子供たちが、いろいろな質問を投げかける教育的なプログラムです。Amateur Radio on the International Space Stationの頭文字を取ってARISSと呼ばれています。

見本

ISBN978-4-7898-1596-3

C3055 ¥2200E

CQ出版社

定価：本体2,200円（税別）



9784789815963



1923055022003

 アクティブ・ハムライフ・シリーズ

わかりにくい言葉もこれでクリア

解説 アマチュア無線の基本用語集

このPDFは、CQ出版社発売の「解説 アマチュア無線の基本用語集」の一部見本です。

内容・購入方法などにつきましては以下のホームページをご覧ください。

内容 <http://shop.cqpub.co.jp/hanbai/books/15/15961.htm>

購入方法 <http://www.cqpub.co.jp/order.htm>

見本